

VIII 図書館および図書・電子媒体等

【到達目標】

建学の精神を基礎とした、特色ある質の高い教育研究を支えるため、必要な図書の充実と学習環境（学習閲覧室等）の整備を図ると同時に、図書館の個性の確立、図書館の地域開放、そして、他大学・姉妹校図書館等との連携を目指す。

1. 図書・図書館の整備

(1) 図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性

【現状】

図書(75,510冊)、学術雑誌(360種類)、視聴覚資料(2,668点)、電子ジャーナル(24種類)等は、学部構成およびその特性に沿って収集した上でデータベース化し、検索できるようにしている。(大学基礎データ表41参照)また、購入図書に関しては、逐次新着情報を開示している。

各学科に関する専門書等の基本的な文献購入は、各学科・専攻に配分される予算に基づき、一般教養や百科事典・白書等といった総合的な文献購入は、図書館の予算によって行なっている。

本図書館が所蔵していない資料等については、図書館HPに掲載している各データベースのオンライン検索システムを導入しているが、それ以外は、他館利用指導や文献複写依頼で対応している。

【点検・評価】

平成18(2006)年前期に2年間を目標として図書委員会で提示された、図書の収書方針、蔵書の見直しや図書館報の発行等といった「図書館に関する12項目の改善・改革案」を実践・遂行している。

資料に関しては、各学科の方針や、上で触れた12項目の一つである、改めて掲げた収書理念の「教育・学習・研究」の領域にみあったものになっているかどうか、図書委員全員と図書館員とで蔵書の見直しをした。その結果、各学科の専門の基本的文献については学科ごとに収書方針を立て、系統的に購入することになった。また、学部共通科目についても、分類ごとの冊数を検討し、冊数の少ない部分を補って購入していく方針が決定された。さらに、辞書類は専門書・一般書を問わず全分野の分類を比較して、南アメリカ史・オセアニア史等のように、ほとんど所蔵していない部分等を図書館が補充していくこととなった。

【将来の改善・改革に向けた方策】

全国の大学図書館と比較し、短期大学時代を含む本学の歴史を視野に入れると、必ずしも蔵書数が充分とはいえない。今後とも『教員・学生及び職員が必要とする教育・研究・学習及び幅広い教養の涵養に関わる情報資料の収集・活用につとめる。』といった収書理念に基づき、図書館費と図書の内実および利用状況をふまえて、資料収集を重ねていくつもりである。

また図書館としての個性を確立するため、ご遺族から寄贈していただいた著書をもとに「中村真一郎文庫」を設置しているが、未収の著作を収集することで一層の充実をはかっ

ていきたい。また、図書以外の資料に関しても、さらなる「特色ある図書館」づくりを目指して、現在模索・検討しているところである。

(2) 図書館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性

【現状】

平成 18 (2006) 年 9 月、本学旧 2 号館をリフォームし、従来、4 つの分室になっていた図書室を一つに集結した新図書館が開設された。それに併せて、図書館システムを導入し、各階に 2 台ずつ検索用端末を置いた。また、入り口に入・退館ゲートを、入り口付近に自動貸出装置を設置し、各階に監視カメラを装備した。1 階には集密書架を導入し、2 階にブラウジングコーナーを設け、3 階には視聴覚ブース及び機器を増設した。エレベーターも内部に設置した。

新図書館の設備は、下記のとおりである。

設備(図書館)

面積	閲覧机数	座席数	視聴覚ブース	収容可能冊数
1,442 m ²	38 台	222 席	8 台	146,000 冊

【点検・評価】

利用者が入りやすく、使いやすい図書館づくりをめざして、2 階の一角にテーブルとソファを置きブラウジングコーナーを設けたが、旧校舎を利用したのリフォームだったので、書架の設置との関係上、十分なスペースを取ることは出来なかった。

一方、図書館システムや ID カードによる入館・貸出の導入によって、利用者の利便性をはかり、検索・貸出の利用者への迅速な対応が可能になった。また、視聴覚ブースの増設により、最近需要の多い視聴覚資料の閲覧にも対応できるようになった。さらに、入・退館ゲートによって資料紛失の可能性が一段と低くなり、監視カメラの設置により館内のセキュリティ性も高まった。集密書架の導入により、収容可能冊数が大幅に向上し、障害者にも対応できるエレベーターの設置によって内部の行き来も円滑になり、図書館員の仕事を合理化することができた。

【将来の改善・改革に向けた方策】

今後の蔵書増加率を考えると、十年ほどで収容箇所の問題が生じる可能性が高いために、長期的な対策を練っておく必要がある。

視聴覚機器・備品の一層の充実をもはかるため、新たにマイクロフィルム見読機を導入することになっている。

(3) 学生閲覧室の座席数、開館時間、図書館ネットワークの整備等、図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性、適切性

【現状】

閲覧室の座席数は全体で 222 席であり、学生収容定員 1290 名に対し、収容定員に対する座席数の割合は 17.2% である。

開館時間は、平成 18（2006）年度から改善され、平日 9：00 - 19：00、土曜日 9：00 - 12：00 である。

蔵書はデータベース化してあり、図書・視聴覚資料の検索の他、学術雑誌や本学紀要目次および新着図書の一覧等が、図書館 HP 上で閲覧可能である。データベースとしては、メディカルオンライン等の医学関係データベースやジャパン・ナレッジ・MAGAZINPLUS 等のレファレンス系データベース、朝日・日本経済新聞等の新聞記事データベースを導入した。

【点検・評価】

新図書館となり座席数は増えたが、改築の関係で、館内で多人数が利用できる学習室等のスペースや、キャレルのような 1 人用の座席等が不足している。開館時間は、図書館員の勤務配置の工夫、一部アルバイトの導入等によって延長することができた。夜間利用者が少ないことと、閉館期でも教員から要請があるとできるだけ開館してきた実績から苦情はでていないが、今後の利用者のニーズを確認していく必要がある。

オンライン上で検索や論文記事のダウンロードができるデータベースは、利便性は高いが、比較的高額なために、実質利用者数と偏向の確認をどのようにしていくかが、今後の課題である。

【将来の改善・改革に向けた方策】

電子的資料の充実を目標としているが、今後とも随時希望を募り、図書費の中でどの程度の予算割合を示していくかを検討していく必要がある。

ネットワークに関しては、東北地区大学図書館協議会加盟館による学都仙台 OPAC、カトリック大学連盟図書館協議会のカト大横断検索 OPAC に新たに参加して、本学の蔵書がそちらで横断検索できるようになるなど、各大学図書館との連携で将来的なネットワーク構築を目指している。

また新たに図書館検索ツアーを行い、新図書館の使い方や検索のしかた、データベースの解説等を行った。好評を得ているので、毎年継続して行っていく予定である。

図書館利用者に対する利用上の配慮としては、最新のシステム設備による利便性の向上をはかるとともに、具体的に入口に「意見箱」を設置して、利用者の声を反映させていく方針を立てている。

(4) 図書館の地域への開放の状況

【現状】

前に触れた平成 18（2006）年度第一回図書委員会で決議された 12 項目の改善・改革案の中の 1 項目として掲げられたが、話し合いの結果、現段階での地域への開放は時期尚早として、具体的な展開を平成 20（2008）年度以降の検討課題としているに見送られているのが現状である。

【点検・評価】

懸案事項として見送られたのは、学内のキャンパス整備の問題があったためである。平成 19（2007）年新 1 号館（校舎）建設に伴う工事の危険性や、大学の学外者に対するチェック体制の甘さが図書委員会の中で指摘された。本学卒業生には、以前から貸出もおこなっており、一般の利用希望者も事前に連絡があり、身分を証明するものがあれば、閲覧は可能となっているが、貸出は行っていない。

図書館は大学の「顔」であり、開かれた大学の指標ともなるので、大学全体の運営の観

点からも引き続き協議していく予定である。

【将来の改善・改革に向けた方策】

平成 19 (2007) 年 9 月末にキャンパス整備が一応完成されるので、それ以降、まずは姉妹校・附属校に呼びかけ、開放していくといった方策が図書委員会で話し合われている。他方、本学の図書委員・図書館員の方から姉妹校・附属校図書館の見学を依頼し、利用者のニーズを研究していこうという案も出ている。

今後は他の図書館の対応をも参考にして、どのような開館時間が、どんな傾向の資料が、求められているかといった地域社会のニーズのありようを調査していく必要がある。

2. 学術情報へのアクセス

(1) 学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況

【現状】

学術情報に関しては、国立情報学研究所に機関別制で登録しており、「学術コンテンツ・ポータル GeNii」の中の「論文情報検索ナビゲータ CiNii」をはじめ、書籍や所蔵の連想検索ができる「Webcat Plus」等が使用でき、本文が電子化されている論文などを学内において閲覧できるようになっている。また、国立国会図書館 NDL-OPAC など HP 上に、アクセス用のアイコンを設け、利用者の便宜をはかっている。

図書委員が、個人的に海外の大学図書館を視察する例はあるが、図書館間の連携には至っていない。

国内では全国・東北地区・カトリック大学図書館協議会等に参加し、協力体制を整えている。とくに姉妹校との協力の充実をはかり、具体的には、平成 19 (2007) 年度夏に、本学図書館員が白百合女子大学図書館（東京）の研修に参加し、図書館見学を実行する。

【点検・評価】

上記協議会に参加しているものの、従来は、研究・協力しようとする姿勢の積極性に乏しい印象があったので、平成 18 (2006) 年度から主体的に参画しようとしている。

資料に関しては、本館資料の閲覧要請数より他大学資料の閲覧依頼数の方が多いのが現状である。

一方、図書館新設に伴い、新聞社 2 社の取材を受け入れたことを契機に、新設予定のある他大学の視察を受け入れた。

【将来の改善・改革に向けた方策】

随時 HP の見直しや、需要のある学術情報を可能なかぎり蒐集していくつもりである。できるだけ他大学からの資料閲覧の依頼も増えるように、充実した収書を実践していきたい。

具体的には平成 20 (2008) 年度から日本カトリック大学図書館協議会、さらには東北地区大学図書館協議会の当番校を引き受け、協力していくことになっている。